

走行チェックシート

日付	2009年10月18日 (日)		時間	~	イベント	2009 MFJ全日本ロードレースRd6	
天気	曇り		マシン	GSX-R1000 K9	ライダー	今野由寛	
コース	名称	ツインリンクモテギ			気温	25	°C
	コンディション	DRY			気圧	986	hpa
	路面温度	35.6°C (計測時間)			湿度	74	%
エンジン	スパークプラグ	NGK R0045Q-10		エンジンOIL	シェルアドバンス RMG-001 #40		
	ファイナルレシオ	15 x 45(3.0)					
トランスミッション	1st	B(35/16)	2.18	4th	B(31/21)	1.47	
	2nd	B(34/18)	1.88	5th	B(28/21)	1.33	
	3rd	B(36/22)	1.63	6th	B(26/21)	1.23	
フロント	パーツ名	SHOWA(760mm)		TEN	-9		
	スプリング	10.00	N/m	OIL	SR6 #5		
	自由長			油面	140	mm	
	イニシャル	13	mm	残ストローク	mm		
	COMP	-11		突き出し	STDトップブリッジで8mm突き戻し mm		
リア	パーツ名	SHOWA(316.5mm)		TEN	-11		
	スプリング	115	N/m	残ストローク	mm		
	自由長			リンク	STD		
	イニシャル	11	mm	リンクロッド	144(STD+2mm) mm		
	COMP(HI)	+1回転(MIN+1回転)		車高	STD+10mm ピボット±0mm スイング長606mm		
	COMP(LO)	-8					
タイヤ	フロント			リア			
	銘柄	ダンロップ		銘柄	ダンロップ		
	サイズ	125/80R16.5		サイズ	200/70R420		
	エア圧	2.1		エア圧	1.8		
チェック	順位	リタイヤ		ベストラップ	1'53.793		
	水温	79	°C	油温	137	°C	
	ガソリン	IN	ℓ	走行距離	km		
		OUT	-	ℓ	燃費	km/ℓ	

<コメント>

早いもので残すところあと2戦になってしまいました。
 事前テストは台風が直撃したこともあって、レインからのスタートとなりました。
 テストは3日間あったのですが天気予報では最終日に関東地方に上陸することと、今回は積極的にレインコンディションでの走行をしました。
 岡山のレースを終えて、問題点はコーナーリング中にストロークさせたいときに動きが出ない。
 何とか動きを出そうとレートや油面などを変えてきましたがこれといったいい方向がありません。
 今回は車体の姿勢を大きく変化させてスタートしました。
 車体の姿勢を変化させて確認できたことは多く、どちらかといえば突っ込みよりも立ち上がり重視のセッティングにしています。
 結果として車体姿勢が低くなっていき車体は安定しているが切り返しなどが重く、進入ではラインの自由度が少なくなってしまう。
 今回の車体姿勢の変化は車体を全体的に高くして運動性を上げ車体前後のピッチングを出すことができました。
 モテギはストップ&ゴーのレイアウトなので立ち上がりがよくても、進入で自由度が少ないのは結果につながりません。
 レースウィークはドライになり、車体の確認とタイヤ選択です。
 金曜の午前中は主にタイヤ選択をし、そのコメントから午後にリアのレートを下げました。
 良い方向でしたがリアが高いので車高を下げて確認。
 明日はもう予選です。ノックアウト方式になってから予選中の大掛かりなセッティングの変更をする時間がなく以前の予選方式では午前中と午後の間に結構な大物の交換などが出来たりしましたが、今はほとんどアジャストしか出来ません。
 レースタイヤで予選開始、第一セッションでは決勝を見据えてのセットの確認をしながらアタック、事前のタイム順位では上位12台はギリギリだったので第二セッションで予選用タイヤを使用。
 迎えて決勝日。ある意味朝のフリー走行が決勝に向けて大胆にセッティングを変更できる気がします。
 フロントフォークの仕様を変更したものを投入、コーナー中のストロークに対し少し動きが出ました。
 しかしダイブスピードが早くなってしまったので、決勝ではイニシャルとCOMPでかけて行きました。
 決勝がスタートし、2週目くらいからペースが上がりにません。だんだんペースも落ちていってしまいました。
 途中赤旗が出て、戻ってきたので状況を聞くとブレーキが安定しなかったとの事。
 対策をしたつもりで再スタートのサイティングラップに出しましたが、今野君が3コーナーでオーバーラン、そのままリタイヤとなってしまいました。
 今回は運が良く今野君が無事でいてくれたから言える事ですが、もし万が一の事を考えると改めて責任の重さを実感します。
 今回も応援していただいた方、お世話になった関係各社には結果が残せず申し訳ありませんでした。
 すぐに鈴鹿ですが、車体は良い方向へ向かっているの、確実に整備して望みます。

レーシングサプライ
 畑中 健太郎